

発言者	発言要旨
座長	議事の1番目、「懇話会の進め方について」事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料1 説明)
座長	ただいま事務局から説明を受けたが、何かご意見等はないか。
委員	(特になし)
座長	議事の2番目、「地域コミュニティ協議会の現状と課題について」事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料2 説明)
座長	ただいま事務局から説明を受けたが、何かご意見等はないか。
委員	<p>まず1点目だが、コミュニティ（協議会）を形成していくプロセスは大事だが、設立が目的化していくようなことは当然あった。</p> <p>それは最初にコミュニティというもの的大事だという啓発の意味では重要だった。これから地域の特色に合わせて、どう変化してきたのかという検証が重要で、自分たちのコミュニティの目的がある程度明確化していけば、外部との連携やあらたな事業が必要だという方向に本来なっていくべきだが、現状として、設立が目的化しており、十分に動いていない可能性がある。</p> <p>（協議会が）やってきたことに対して、地域課題や目的は何かを住民と同意形成を取らないと、次に何が必要かという議論に発展せず、今やっていることをどう継続させるか、どう関わってもらうかに議論が収束してしまう。そうすると、常に出てくるのは人材がない、人が来ない、集まらないという意見が主流となり、議論が空転していく。</p> <p>だから、コミュニティ（協議会）を導入して、実際に動かして、わかったことや感じたことを省察することが大切であり、課題はそれぞれの地域で変わるのだから当然だと思うので、それを（把握し）見直すべき時期に来ている。</p> <p>2点目は、参加・参画の工夫をしてもいいと思う。多くの人たちが集まる際に、どうしても時間と空間（場）に縛られてしまい、そうなるメンバーが固定化する。ライフスタイルが多様化していく中で、毎回、一番（人が）集まる時間に設定されるケースがほとんどであると思われるが、そのパターンが繰り返されれば、多くの方が参加できずに排除されて、そこで分断が始まる。参加の方法や活動のフィードバックなどももう少し工夫が入ってもいい。</p> <p>そうした時、DX（デジタルトランスフォーメーション）やICT（通信情報技術）の検討は本格的にしていけないといけない。（会議動画の記録の活用等）時間と空間が限られた活動からもう少し工夫し、広げていけない限り、参加・参画は望めない。事業に参加しなかった人たちも実質的な会議などに次は参加できるとか、議論の中身をよく知っているという構図を作っていない限り、限界が続いていくと思う。</p> <p>3点目は、地域の課題や意見の収集の仕方など、非常に多様化している現状で、住民の活動をどう支援していくかはある意味専門的になってきており、それを学びや参画にどう絡めていくかという中で、支援員の力量形成が重要</p>

発言者	発言要旨
	<p>であるが、現状はどうなっているのかが気になる。</p>
座長	<p>まず、1点目としては、設立が目的化しており、ある程度重要なものを整えるということ。まさに今回見直しをしていくということだと思うが、協議会の中で地域特性に合わせて変えていくという声を出やすくするよう、支援員が進めていくというイメージか。1点目について何か意見はないか。資料2の2ページの(1)の「考えられる課題」で(支援員の)力量形成の話もあったが、何かご意見・補足情報などはないか。</p>
委員	<p>五、六年ほどコミュニティ協議会で現場を見ているが、参加して地域の人に知り合いが増えてくることは私自身面白い。だが、委員が言われたように時間帯が一緒なので、参画する時間帯をいろいろ変えていくと、参画できる方の母数も増えていく。現場で会わないと駄目だという形もあるが、若い人たちの集まりだと、お昼時間にオンラインで議題を進めるなどの多様性もあっていい。かえってコミュニティ協議会の中でもそういった多様な進め方を1回何か考える機会を設けられたらいい。</p> <p>皆さんお忙しいので、理事会や役員会で決まったことを下ろすような形になっているが、協議会では会話の時間が少なかったりする。</p> <p>コミュニティ協議会は人とのつながりや自治を自分たちで動かしていくというのが目的だと思うが、協議会の中では会を進めることが目的になっていることがあるかもしれない。やはり人と人のつながりを作る場で、集まった人たちが対話する場なのだという定義づけをもう1回見直していかないといけないと思ったところだ。</p>
座長	<p>先ほどの意見の2点目、参加・参画の工夫に関連したお話だったと思う。他はいかがか。</p>
委員	<p>校区公民館運営審議会とコミュニティ協議会の立ち上げに参加した経験で申し上げますと、PTA代表として校区公民館運営審議会に参加していたときはあいご会などの子どもが関わる団体とのコミュニケーションは取れていたが、高齢者の老人クラブなど福祉関係の団体とは特にすり合わせをする必要は感じなかった。</p> <p>そのときに思ったのが、校区公民館運営審議会の一員でありながら、自分の住む校区にある団体の活動をあまり知らないし、知る必要もないと考えていた。コミュニティ協議会の立ち上げにあたって、校区の住民も校区公民館運営審議会が何をやっているのか知らないという方がほとんどだった。</p> <p>だから、校区公民館運営審議会がまちづくり協議会に変わるとき、事業者や地域で活動する団体等にアンケートをとり、自分たちの地域の住みやすさを中心にして、利便性や不便を感じる点を積み上げると、自分たちが予想しないような多様性に富んだ回答があった。当初の協議会の立ち上げという目標から、人と人、団体と団体をつないでいく橋渡しとしての今の協議会の立ち位置を考えると、校区公民館運営審議会の頃とすると、格段に横のつなが</p>

発言者	発言要旨
	<p>りが出てきたと感じる。</p> <p>まだ発展途上で、満足いくところではないが、例えば福祉部会と校区社協は当初別々の活動をしていたが、同じ福祉に関わるもので一緒に活動したらいいのではないかと、同じ目的で動いているものは統合して、一緒に活動していくという声も出てきた。コミュニティ協議会になり、新たな人とのつながりが出てきて、新しい発見があり、それをみんなで共有していくと、またいろんなアイデアが出てくると思う。</p> <p>また、(西伊敷) 小学校の児童数は減少傾向にあったが、最近は下げ止まりの傾向になっているようだ。まちを見渡すと、かつてこの地で生まれ育った人も含め若い世代が住み始めている状況があり、実際そこ(若い世代)の子たちが西伊敷小学校に入学しているのを見ると、これから先、コミュニティ協議会として何かできるのではないかと感じる。</p>
座長	<p>校区公民館時代の経験もあり、その後の変化も見てこられた方の意見は非常に貴重だと思う。委員の意見も働く方の目線で、どこまでDXが入り込めるのかは課題になると思うが、素晴らしい意見だったと思う。</p>
委員	<p>校区公民館運営審議会に10年間携わり、コミュニティ協議会への切り替えがあったとき、他がモデル校区で動いていたので、自分の校区もすぐ設立できると思っていた。だが、自分の地域は町内会の加入率も低く、町内会以外の人たちも多く、町内会から負担金をもらっていたことに対するブーイングがかなりあった。</p> <p>(校区) 社会福祉協議会の立ち上げの際には福祉関係の団体を、安心安全ネットワーク会議の立ち上げの際も関係する団体をすべて取り込んでいた。また、セーフコミュニティに関わるときにさらにいろんな団体を入れた。</p> <p>コミュニティ協議会を立ち上げるときも総合的にと考えていたが、地域の理解を求めて、活動に入るのには時間をかなり要した。だから、協議会の組織団体は会員制とし、1000円から始まって、組織・団体の規模に応じて会費をいただくこととし、今60団体ほど参加している。加入世帯が減少している町内会も一会員とし、負担金をなくした。</p> <p>参加や参画の工夫としては、体制的に既存の校区公民館運営審議会の人たちが入っているので、なかなか意識改革ができず、それ(校区公民館運営審議会)を引きずっているというのはあると思う。世帯数の多い校区だが、コロナ禍もあって、動くのはごく一部というのはある。役員会でも自分から意見を言う人は少なく、提案したことにならずに、すんなり行動に移っていくのは非常にありがたいが、会が終わるとやるせないものを感じる。</p> <p>コロナ禍で事業ができないときは別な事業を考えて、転化してやっているので予算はほとんど全部使っているのが現実だが、人を動かすというところは難しかった。</p> <p>これまでは協議会の周知を図っていく4年間だったと思う。来年度5年目</p>

発言者	発言要旨
	<p>なので、課題を今年度検証しながらやっていこうと動いている。(校区)社会福祉協議会は別組織だが、うちの場合はすんなり協議会に入った。他の協議会はまだ別仕立てのような感じもある。それと最近少し感じているのが、あいご会の組織も別仕立てなので、協議会に入ってもらわないといけないのではとも考えている。この間、(あいご会の)事務局に行ってきたが、あいご会も町内会と同一のようなどころがあるので、鹿児島市民憲章の「鹿児島市民はみんな助け合って子供たちの幸福を守りましょう」には至らないのでどうにかしてほしいと言ったところである。</p> <p>コミュニティ協議会が目指しているものを、もう一度鹿児島市から地域に投げていただきたい。それぞれ地域の特色を持ってというのはわかるが、コミュニティ協議会はどういうところでもう動いていくか、図で書いたのがあるが、実際その動きの段階に入っているのかということ、まだまだのところも結構あると思うので、10年間経ったところでもう一度支援員がきちんと入って、一緒に動いていただき、地域のニーズに沿ったものとして、総合的な(位置づけの)中のコミュニティ協議会なのだということを協議会に知らしめていただくことが大事なのではないかと思っている。</p> <p>鹿児島市にはいろいろな組織があり、その中でコミュニティ協議会はどういうところなのかという認識を持ってもらうことと、セーフコミュニティもモデル校区みたいな形で受けているが、鹿児島市全部で動かなければならないと思う。</p> <p>なので、校区公民館運営審議会からコミュニティ協議会に移行したというまだ狭い中にあると思うので、もう少し広い意味で地域全部を包括するところなのだというような意識を育てていただくところかと思う。</p> <p>今、八幡校区コミュニティ協議会は割と早く立ち上げられて、いろんな振興会とともに動かれて、素晴らしいと思うが、地域の事業所も一緒に取り組むことはやっていかなければならない。</p> <p>住民だけの力ではどうにもならないので、地域に事業所があるのだから一緒に動く住民(と同じ)というところの意識を少しずつ持ってもらう。そうすると、まち全部が見えてくる可能性は十分にあると思う。</p> <p>その中で委員がいう参画の工夫をやっていかなければいけないし、自分たちの地域にどういう特色があるのかも見据えていかなければいけないと思うし、支援員もただ地域の実情に合わせてだけではなく、もう少しこういうところを付加すると地域はこうなるのではという提案をしていただく。それが支援員であってほしいと思う。</p>
座長	<p>たくさんの論点があったと思うが、セーフコミュニティも含めてうまく関連づけてコンセプトを設定し、目的の再認識・再確認をする仕組みを市が支援してできればいい感じになるのではないか。</p> <p>あとは組織のあり方だが、事業所がたくさん入ったことでうまく行きだし</p>

発言者	発言要旨
	<p>て、横のつながりが増えたところがあるのかなど、各協議会の把握をすることも必要かと思う。</p> <p>それから支援員の力量形成については、役員自身の力量形成も必要で、強いリーダーシップを持つ方がいらっしゃるところは役員会も盛り上がり、課題も地域や時代に合わせて変わっていきけると思うが、そうではないところをどう支援していくか、また何ができるかを考えさせられた。</p> <p>私自身は他の教員と社会連携関係の役割分担をしており、直接コミュニティ協議会には携わってはないものの、間接的に報告を受けて知っているので少し申し上げると、2ページの3「協議会の具体的な取り組み」には載ってないが、紫原地区で大学が連携し、お祭りの司会や提灯つけ他、運営に参加して大変喜ばれている。</p> <p>また、大学祭の実行委員会や学友会の学生が、コミュニティ協議会の会合と一緒に協議して喜ばれた。間接的に事業所がコミュニティ協議会に入っただけで、違うフェーズが見えてきていると感じる。高等教育機関としては、市内では少なく限られているので、存立地域においては先進事例として積極的に機能を生かしていかないといけないと思っている。</p> <p>一方で、コミュニティ協議会を知っている一般学生はほぼいない。そもそも地域の活動に参加する層は、大都市圏と比べると多いが、県内学生全体からみればまだどの大学もごくわずかである。委員は若者として、あるいは若者との関わりが多かった立場として、どう思われるかお聞かせ願いたい。</p>
委員	<p>地域に関わりたいと思う若い世代や学生は徐々に増えてきていると感じる。その中で地域に関わる手段としてのコミュニティ協議会について、存在を知らない、あるいは小学校のころあいご会に参加していたが、どう関わっていたかがわからないところがある。</p> <p>参加・参画の仕方、学生や若い人たちが対話に関われるかというところはポイントと思ったが、そのときにコミュニティ協議会が何を目的にしているのか、地域のビジョンのようなものがあるかは、若い人たちが関わる上で一つの指標になるだろうと思っている。</p> <p>先日、偶然谷山のコミュニティ協議会のビジョンの冊子をネットで拝見した。地域の住民参加型のワークショップで、課題と住民がどのような未来を描きたいか、その上で住民の方々が具体的にどのような一歩を歩もうとしているのかがまとまっているのを拝見して、地域の課題と資源と、そこから立ちあられるビジョンのようなところは、やはり見える化がされていることは大事だと思った。</p> <p>広い世代に届けられるように、手触り感のある冊子も大事だし、わからないことがあったらすぐにネットで調べる若い世代は、SNSやネットなど調べたらすぐ出てくる状態になっていることで何かのきっかけになると、意見をお聴きしながら思っていたところだ。</p>

発言者	発言要旨
座長	<p>情報発信の話だったと思う。地域に関心がある学生は、県内大学では社会教育系や地域系の専攻に集まるが、その割合は少ない。ただ委員が言われるように、地域と言って目を輝かせる学生は増えてきている。</p> <p>地方大学は「地域志向型科目」を作る動きがあつて、私自身の体験としてもキャリア教育と地域を絡めている。県外に出る人も含めて、職業や自己を理解するにも、まずは足元の地域を知ることがスタートであり、キャリア形成の面からも地域との取組は外部評価でも高い評価を受けやすくなっており、学習効果も高いと思う。</p> <p>コロナ禍の中、自大学では県内就職率が10%も上がった。リモート面接で就職活動ができ、県外の企業を受けやすくなっているのを差し引いても、10%伸びたことは驚きで、地域に学生の目が行きやすくなってその良さを感じている今がチャンスかと思う。</p> <p>少し戻るが、学習行動論にもあるが、正味1割が活発・活動層になるので、真ん中の浮動層6割をどう地域に関連させていくかということになってくると、事業所としての教育機関が、うまく地域コミュニティや町内会活性化事業をカリキュラムや課外活動に取り込むことがいいのではないかと考えている。</p>
委員	<p>今の話を聞いて2点ほど考えているが、どちらも難易度が高いので、非常に厳しいとは思っている。ただ、考えざるをえないところがある。</p> <p>すでに学校教育も含めて、変わりつつある。そのことを認識するために、まず親たちがもっと今の社会変動を学んでほしいというのが正直な感想だ。それを踏まえた上で、実は高校で地域探求科というのが普通科で設定されていて、すでにシティズンシップ(=社会形成・社会参加に関する教育)や市民性教育は重要度が増していて、公民館に無料で自分のやりたいことがやれる「学習権」があること自体知らない。そういったところになぜコミットできないのかなぜ難しいのかというと、やはり行政的なセクショナリズムの問題があり、今後これらを乗り越えざるをえないところがある。</p> <p>ただ一つだけ、僕は希望を持っている。鹿児島市は他の県内の市町村とは違い、いわゆる校区公民館運営審議会がコミュニティ協議会に移行したということで制度的にも位置的にも学校と近い関係がある。他の地域ではほとんど学校は無関係であるため、これは珍しく特徴的である。</p> <p>学校が非常に近い関係にある中で、地域学校共同活動やコミュニティスクールが整備されているにもかかわらず、シティズンシップや、コミュニティの中でこういうことができるとかこういうことをやっているという情報も含めて、なぜリンクしないのかがジレンマだ。</p> <p>本当は難しいのはわかっている。教育部局と市長部局の垣根は非常に難しい。ただ、かなり近い距離にあるので、そこは何とか鹿児島市の特徴としてやっていただきたいのが1点である。</p>

発言者	発言要旨
	<p>もう1点は具体的な案だが、僕は子ども食堂に関するアドバイザーをやっている。子ども食堂は今まで貧困の子どもたちにターゲットを絞ってやっていたが、現場の声として行き詰まりがある。そこで、僕が注目しているのは、みんなが気軽に集まれる大衆食堂だ。委員のいう「交流が出会いだ」がコンセプトとしてしっかりあると、住民の居場所として誰でもウェルカムという形の中で食を共にしながら、地域の情報を得られる場としておそらくコミュニティ協議会とコラボできるだろう。</p> <p>だから、外の事業所を巻き込むという意味においては、福祉の話もあったが「幸福」というテーマについても、そろそろ本格的に考えて、そういったところに高校生や大学生が次の自分たちの住む地域をどうしたいのかという文脈をかけ合わせながらやってほしいと思っている。</p> <p>そういったものを仕掛けた際に、大学を中心に議論していくと、持続可能性が難しいところもあるので、可能であれば、支援員がしっかりそういうビジョンを持って、支えていってほしいと思う。</p>
委員	<p>校区公民館運営審議会から（協議会を）立ち上げるとき、もう別々のものではないので、もう少しタイアップしてはと言ってきた。福祉教育であったり、環境教育であったりというもの（人材）を育てるのが社会教育の役割だと私は思う。だから、今も区別していることがおかしく、そのためのコミュニティ協議会と思っていたが、いまだになかなか（難しい）。</p> <p>学校は地域とは別という感覚があったのが、今は学校も地域を知ることが大事だということにきているので、コミュニティ協議会もこの流れの中で学校を取り込み、（私たちは）学校は協議会の中にしっかり重きを置いて、役員に教頭先生たちを取り込んで、役員会に出てほしいという位置づけで動いている。</p> <p>学校を取り込むことで、地域のことを子どもたちに発信していく場にも当然なると思うので、コミュニティ協議会の活動は全部社会教育なのだという位置付けを市民局も持っていたらありがたいと思う。</p> <p>今、子ども食堂の話もあったが、私も高齢者の弁当を出したりしているが、食が取り持つコミュニティがあると思う。やはり、地域の中にそういうところが拠点としてあるべきだと思う。</p> <p>社会が多様性を言うようになった。多様性というのは、いろんな人たちを認めながら、活動をともにやっていくことになると思う。</p> <p>いろんな人たちがいるのが地域だと思うので、そういうところをまず役員から人材育成をしていくところにあるのではないのかと思う。地域はいろんな課題がある。</p> <p>一緒にやろうと言っても、お前はこういうところだから一緒にはしないというもある。コミュニティ協議会がそれをなくしていく一つの術だと思う。</p> <p>コミュニティ協議会の課題はすごく大きいけど、向かう先はすごく幸福に満</p>

発言者	発言要旨
	<p>ちていると思っている。吉野地域でアンケートをとったときに、中学生が吉野はどんなところで、どう思っているかを聞いたとき、広いメモ欄に小さな字で「大好き」と書いてあった。皆が大好きと思うまちを私たちは持続していかなければならない、夢を持った地域コミュニティでなければならぬと思っている。</p>
座長	<p>私もコミュニティスクールの委員の経験から、協議会とメンバーも同じなのであれば、一緒にできることがあるのではと提案したところだった。例えば、セーフコミュニティや福祉系の包括ケアシステムの整備、コンパクトシティ構想があるが、全部コミュニティをうまくつなげていくとなると、いろんな組織があっても一緒にやらなければいけないということになると思う。</p> <p>その核となるのが地域コミュニティ協議会になるのかどうか、位置付けをこの会議が終わるまでに概念整理できればいいという気がする。</p>
委員	<p>私は小学校、中学校のコミュニティスクール（学校運営協議会）の委員をしている。ちなみに中学校の校長先生は私が現役のときによくお世話になった体育の先生だが、コミュニティ協議会にいたおかげで人との関係性があって、「先生、現役のときに何かしましょうよ」と言いやすくなった。</p> <p>1回しか（コミュニティスクールに）参加していないが、コミュニティスクールができたことで学校を核として、地域連携がしやすくなってきたという感じがした。小学校・中学校の内情を聞くと、カリキュラムが決まっているので忙しい。</p> <p>「騎射場のきさき市」の実行委員長を連れて、小学校と中学校の校長先生、教頭先生に会って、こちらが企画したものについて（話をすると）、学校もやる・やらないの判断や、やる場合には子どもたちとこういうことができそうだという感覚があったので、これから連携しやすくなっていくと思う。</p> <p>そこまで接点がない協議会は、学校の連携ができることを知らない人がいると思う。私は社会教育委員でもあり、そこで言っているのは公民館や学校の図書館は地域に開かれたものにしていく動きもあるので、学校の中の施設を地域も使いやすくなり、一緒にできる部分が整いつつあり、あとはそれをどう使っていけばいいか、情報を提供して、事例を作って指し示していくタイミングだと思った。</p>
座長	<p>コミュニティスクールが来年度にかけて全市で整うので、委員が述べられたように校区（公民館運営審議会）スタートのコミュニティ協議会は非常に珍しいとすれば、鹿児島市のカラーになっていくと思う。</p> <p>そうすると、話題性も含めて、これまでの古い・固い・よくわからないというイメージが払拭され、これまで関心のない年代も関心を示すようになるかもしれないと感じた。</p>
委員	<p>委員が言われたように、若者は地域に関わりたがっている。この間、コミュニティ協議会の会合に騎射場のきさき市の実行委員長を連れて行くと、「これ</p>

発言者	発言要旨
	<p>が地域ですよ」と喜んでいた。</p> <p>今の大学生はまちづくりの教育があるので、それに触れている人は生の現場に行きたいが、行き方を知らない。先生によっては行くことができるだろうが、もう少し協議会があるというのを、実際子どもたちに伝えるツールを学校に教えてあげるべきだと思った。</p>
座長	<p>コミュニティ協議会にも学生がボランティア的に運営に参加するのもいいのかもしれない。大人や学校、コミュニティ協議会のメンバーの方々も、社会教育として、いろんなことを学ぶ必要があるというのはどうか。</p>
委員	<p>やはりコミュニティは「こういうことだ」や「こういうことを目指している」ということがもう少し共有されていくことが大事だ。</p> <p>今、社会教育もいろいろ問題がある。市長部局としても人材が大事であり、学習が必要だということがわかってきたわけだから、コミュニティ協議会の中で学習活動は位置付けてほしいと思う。</p> <p>こういう施設もあるとか、こんなものを使えるとか、こんなサービスがあるというのは、情報化社会においてすべてオープンにされているにもかかわらず、今の情報は基本的に自分が取りにいかなければならないという構図をしている限りにおいて、とても限定的であり、一般書店のように多様なジャンルが並んでない。これは結構大事なことで、情報化社会で全部情報がオープンにされて、便利のように聞こえるが、実はアマゾンで物を買っているのと同じで、目的があるからそこに最短で到達しようとする。だが、本屋は目的がなくても、目に留まる。本屋がなぜ重要かという新たな視点を発見したり、いろいろな情報との連結や比較が可能だからである。実はコミュニティもそういう役割もあって、様々な出会いや新たな情報によって意識変容が起きていくプロセスは大事だ。何かの講義を受けるといふ発想を全部とっぴらって、基本的に実際にやっていること、それこそ委員の活動も全部学習だという意識をもって、そういったものをサポートしたり、見える化をしたりすることはとても大切だ。それこそが人材育成につながるという点を軸にして考えてほしいと思う。</p>
座長	<p>学ばせるというのも、委員が言われるようにいろいろな人がいる。その辺をどうやって協調しながら動かしていくかということだが。</p>
委員	<p>私は「人が集う中に学びがある」と思っている。何気なく、集う中に学びがあったり、課題が解決に向かうということはあるので、そのためのコミュニティ協議会だと思う。今、専門部会ごとに行事をやるのが協議会で当たり前になっているが、やはり人が会う、人が顔を見て何かを感じるというところが、コミュニティの目的だと思う。</p> <p>まず人が集まる場所を設けるのが協議会だと思う。集うというのは一つの道具だ。私は会員制度という形にしたが、いろんな組織が一緒に集まろうということがコミュニティビジョンの目的だと思うので、もう1回見直しをし</p>

発言者	発言要旨
	ながら、さらに意味合いを深めながらやっていくことではないのか。
座長	2ページの項目6に考えられる課題があるが、今日は(1)を中心的に議論が盛り上がったと思っている。(2)はいかがか。DXとリモートは委員の意見にもあったが、何かあるか。
委員	<p>チームごとに、はがきがいい(場合)、ファックスがいい(場合)、LINEがいい(場合)というものをどう統合していくかはすごく難しいと思いながらも関わっている。</p> <p>もしできない人たちがいるのであれば、それこそどう一緒にするのかというのは協議会ができることだと思うので、(1)に戻ると、事業がほとんど変わらないという課題があれば、事業の作り方を学ぶというところに協議会の予算で講師謝金を出ることをすると、協議会の中で興味ある人が集まって、事業の作り方やDX、LINEの使い方など情報共有の方法について、地域の企業や専門の人を呼んで来て一緒に学ぶ場を作っていく。それも地域コミュニティのあり方の一つだと思うが、地域の中ではできないので何かサポートをいただくと助かる。</p>
座長	時間もあるので、次の議題に移る。議事の3番目、「地域コミュニティ協議会に向けたアンケートについて」事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料3説明)
座長	アンケート調査の質問項目について説明いただいたが、何かご意見はあるか。アンケートを行うのは情報把握として重要と考えているが、不足している項目、または不要な項目があればお願いします。
委員	<p>アンケートで課題を取っているが、なぜその課題が起きていると思っているか、原因に係る問いかけがないように感じる。実態を調査する上で、この課題はなぜ起きているかという意見を拾い出ししないと、原因の特定ができない。原因を特定することで必要な制度が何かの仮説が立てられると思うので、そういった部分をもう少しやっていくということが必要ではないか。</p> <p>もう一つの論点として、誰が書くかというのが結構重要だと思っている。書く人が会長か役員かで違うので、できれば二種類作った方がいいと思っている。取りまとめが大変だが、会長が書くものと役員の方のどちらが書くものかで全然統計が違ってくると思うので、精査した方がいいと思う。</p>
座長	課題の問いかけをどのようにするか。何か項目を示すのかそれとも自由記述か。
委員	例えば、問17は協議会の運営活動に関する課題があるが、次の項目でこの課題はなぜ起きていると思うかを自由に書いてもらうような問いを入れてはどうかと思う。
委員	些細なことだが、回答欄に一位、二位、三位とあるが、①②③でいいのではないかと思う。
座長	それをもとに検討いただきたいと思う。

発言者	発言要旨
委員	<p>薩摩川内市でこれに近いアンケートを見たが、会長と役員が書いている内容がバラバラで、そこに差異があるのではないかという意見は出ていた。</p> <p>まず、しっかり文章としてアンケートの必要性を設定しないと、他のアンケートに埋もれてしまい、答える側がテンプレのような回答をしてしまう恐れがある。やはりこれはコミュニティ協議会の活動の見直し（のために必要）なのだということをしっかりと意味づけして、答えてもらうよう工夫してほしい。</p> <p>あとアンケートを取るときに参考にしていただきたいが、基本的に主観を取るのももちろん大事だが、満足・満足でないは書き手の考え方で違う。だから、問題意識が高い方ほど不満だと思ったり、無難に活動をこなしていることを満足と表現したりする。</p> <p>だから、具体的な数字や行動に基づく項目になるべく寄せていった方が分析しやすいと思う。主観に関してはどうしても書く側の問題意識の持ち方によって真逆の結果が出て、それがミックスされるとよくわからない数字が出てくる。</p> <p>アンケートのジレンマだが、主観で書かざるをえないものも多くあるので、全部というわけではないが、これは主観ではかなりぶれが出そうだったときにはなるだけ、実際に起きたことや行動を振り返って書くようなものがデータとして正確に取りやすいと思うので、よければ工夫をしていただけたらうれしい。</p>
委員	<p>「満足している」というより、「活動している」や「概ね活動している」という言葉がよりやわらかく、具体的かと思う。</p> <p>何に対して満足しているのかということもあるので、そういう言葉で伝えてもらうと評価しやすいと思った。今、2パターンという話もありますが、1パターンで取るなら、回答者の役職の欄も必要なのでは。</p>
委員	<p>年齢層やスキルで紙がいい人と、デジタルがいい人で分かれる。全部紙だとやはり時間もかかるし、集計する側も大変だと思う。その部分をウェブでも回答できるようにするやりやすくなると思う。ウェブで回答する人が多いと、紙で回答する人と掛け合わせをするだけなので、各協議会、会長とそれ以外の方の3名で書いてくださいなどの案内ができると思う。</p>
座長	<p>冒頭に今回のアンケートは非常に重要なものであるという意味付けの言葉がまず必要であるということ。そして、会長とそれ以外の方の回答方法の検討。</p> <p>課題について、なぜ起こったかという要因に関する項目の追加。それから主観的な問いかけを極力避ける。場合によっては数値化しづらいときに満足度という設問も作りがちだと思うが、変えられるところは変えていただきたいという形でよろしいか。</p>
委員	<p>アンケートした結果は答えていただいた団体に返されるのか。</p>

発言者	発言要旨
事務局	結果は報告する。
委員	<p>了解した。アンケートにおいて、結構多く答えたが、分析も結果も見たことがないという批判がある。大変だが、誠実にやっていかないと、協力した側が一体何だったのだろうというのが続くとアンケートのクオリティも落ちていくと思うので、可能であれば分析も含めて、返すことで学びにつながるようにおいてほしいという希望がある。</p>
事務局	<p>回答方法についてはウェブ回答も含めて検討している。できたらアンケート項目は別途作るより、この項目を複数の方に回答していただく方向でお願いしたい。</p>
委員	<p>高齢のひとり暮らしの方で、町内会から外れた方、また回覧板を回す気力も体力もないのでうちは遠慮しますという方も含めて、情報に漏れた人を1人でも少なくするというのは、特に防災上のことも含めて、大切なことだと思う。</p> <p>だから問4に「情報が浸透しているか」を追加できないか。アンケートの記入者側は情報発信に満足しているても、受け手側の地域住民が必ずしも満足しているとは限らない。</p> <p>コミュニティ協議会に関係している人は自分たちの情報はうまくいっているか確認することが大事なので、可能なら設問を追加した方がいいと思うがどうか。</p>
座長	<p>デジタルディバイドの問題や、紙媒体も含めて情報が行き届かないという方もかなりの割合いると思うので、協議会として把握しているかなども検討お願いすることでよろしいか。</p>
	(異議なし)
座長	<p>次の議題に移る。議事の4番目、「ヒアリングを行う協議会について」事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	(資料4説明)
座長	<p>団体の選定方法の例を示しているが、次回ヒアリング調査の対象となる協議会について、項目あるいは要素の提案はあるか。</p>
委員	<p>ヒアリングされる方とする方が同じというのは互いにやりづらい。</p>
委員	<p>たたき台として、一般的に言われる「都市型(中心型)」が一つ。それから、吉野のような「新興型」。おそらく、古くからの住民と新住民との様々な葛藤が存在している可能性がある。それから鹿児島市周辺の農村と言っていいか難しいが「周辺型」があって、それぞれコミュニティの特徴が若干違うはずなので、この三つは押さえない。</p> <p>あと一つがまだ思い浮かばないが、先駆型にするか、それともやっぱり課題が多く、うまくいっていないところをヒアリングするのかわからないが、とりあえずこの三つは押さえても面白い。</p> <p>都市型の課題、それこそ八幡と吉野の課題とは違う。あと、郡山地区とか、</p>

発言者	発言要旨
	桜島もまた少し違う特徴がある。それぞれの背景の違いなども聞いた方がいい。全部が都市部や中心部の議論だと、(協議会が)どうしても合わないとか関係ないということはある。
委員	鹿児島市も広いからいろいろなところを抱えていると思うので、吉野は人口が増えて、隣を知らないような状況で、非常にコミュニケーションが取りにくい。まだ、地方の方が皆顔も知っている。そういう意味でいろんなところを選定して、聞いてみるというのも現状を知る意味ではいいと思う。
座長	私も委員と同じ感覚だ。施策を進める上でも、都市型と住宅街、新興型と周辺型と、もう一つ取っておくと他にも役立てるデータになるので、参考となる。
委員	鹿児島には30団地ぐらいあるので、団地を一つ入れるといいと思う。
委員	<p>最初コミュニティ協議会を立ち上げるときに、先行している中名、平川、八幡(のモデル校区)のうち、私のところで応用できるのは平川と中名は規模的にもすぐに参考にできるが、八幡は中心街にあって、そこに鹿児島大学の学生さんたちも巻き込んだマンションも多い。私のところは小さなアパートがあるぐらいだ。</p> <p>今言われたように、古い団地を一つと、天文館を中心としたマンションが多いところ、郡山、吉田、中名、平川などの郡部の農村地域、それにプラス、あと一つつけるというのがいい。そうすると、「このコミュ協は自分たちにちょっと似ているから、参考になるよね」というのが協議会もイメージしやすい。</p>
座長	先駆型か課題型かについて、例えば注目されているとか、成果が上がっているという協議会は何か把握するすべがあるか。コーディネーターが回っていて、ここがいいというところを挙げてもらうのがいいのか。
委員	意外と課題を抱えているところはそういうのがなかなか分からないことが課題だ、という話になったりする。現実問題として難しいのかもしれない。
委員	アンケートを集計する前にヒアリングの協議会を決めるのか。
事務局	アンケートも参考にする。
座長	よろしいか。それではその他に入る。何か委員からあるか。
委員	<p>支援員に関してはまたぜひどこかでやっていただきたい。常に支援員として力量を発展させていくというビジョンを持ってチャレンジしてもらいたい。</p> <p>今までの支援員は地域のいろんな方々を知っている、あるいは顔が利くというのが「支援型」で立ち上げのときには本当に活躍していただいた。これからは、作り上げていく段階なので、チャレンジとトライ・アンド・エラーを繰り返していけるような専門性が必要だと思っているので、支援に関する力量と役割に関しては再考していただきたい。</p>
座長	内省しながらその行動がいいのか、前例踏襲ではなく、その行動が正しい

発言者	発言要旨
	のかりフレクション（内省）を行う成人教育論の1つだ。
委員	そのとおり。リフレクションしてもらわないと、コミュニティは生き物なので、常にそういったものをフィードバックして、今ある課題をもう一度どう進めていくのか、トライしていくのかという専門家が位置づいてほしい。
委員	もう一つ言えば、支援員の方々がいろんなところのまちづくりの組み立てをしていく過程を勉強していただけたらありがたいと思う。1つだけ行って、「はい終わりました」ではなく、いろいろなところに出向いて、その過程などを研修で深めていただければ、私たちにも参考になると思う。
座長	他にあるか。
委員	あと4回（意見懇話会が）ある中で、論点として付け加えてほしいというのが、鹿児島でも県外でもいいが、企業と地域をどうマッチングするかということはこれからの時代、必要だと思う。点と点でやるより、こういった議論の場でそういった動線を作ってあげる。例えばDXも、NTTやシナプスと連携して地域と一緒にやってやろうという方がすごく楽だ。NPO法人がある協議会とない協議会があるので、地域企業やその事業所と一緒に連携する考えを論点に入れてほしいと思う。
座長	<p>産業界は生涯学習やリカレント教育（社会人の学びなおし）、SDGsも含めて、社会指向になり、それが遠隔的に利益になるという現代社会の潮流の中で、委員の提案は非常に重要だと思う。</p> <p>DXに関しては、情報系の企業が動けば大きな動き、新しい動きになると思うので、大事な論点をいただいた。</p>
委員	本当にソーシャルキャピタル（社会関係資本）はベースになってきている。
座長	東日本大震災後に急に増えた社会起業家、NPO法人も含め、災害空間のネットワークも含めたソーシャルキャピタルなどコミュニティはその辺を動かす核になるかもしれない。それでは本日の会議はこれで終了する。皆様方には、長時間にわたり貴重なご意見をいただき、また、議事進行にご協力いただき、感謝する。